



すずしろ 22 2022 8 月報

すずしろは大根 それは大地の豊かな恵の象徴 22 世紀につなげる農のあり方を 共に考える会

援農状況

2022 年 7 月の援農集計

	援農時間(h)	参加者数(人)	参加延べ人数(人)	農家数(軒)	年間援農時間(h)	年間参加延べ人数(人)
2022 年 7 月	2,535	74	691	23	12,512	3,406
2021 年 7 月	2,113	60	558	23	11,314	3,044
増/減	+422	+14	+133	0	+1,198	+362

夏野菜の収穫の合間に人参の種まき、そして草取り作業と続いております。桑の葉収穫作業は終わりましたが、ブルーベリー収穫作業は、まだまだ続いております。

7 月の援農は 2,500 時間を超えました。そして、74 名の方が援農に参加されました。月間の最高時間、最高参加人数となりました。年間累計では、1,200 時間の増となっております。また、会員（105 名）の 7 割ほどの方が援農に参加されたこととなります。猫の手も借りたい忙しさの中、まさに『全力援農』、『全員援農』となりました。

たくさんの仕事があり、それに応えて援農に参加して頂ける方がいることは、農家さんにとっても、会にとっても、とてもありがたいことですが、やはり健康があつての援農となります。健康状態は、「顔色・会話・動き」でもわかります。何かいつもと違うと感じたら、躊躇なく「やすむ」、「やめる」、「とめる」勇気を持ちましょう。8 月も後半と



なりましたが、厳しい暑さはまだまだ続きそうです。全力援農、全員援農の前に、まず『安全第一！』で行きましょう。（援農サポーター/北尾）

*会費の徴収について：年度途中での入会の方、会費支払いが終わっていない方の援農報酬は、会費を差し引いてのお支払いとなっております。ご承知おきください。

理事会報告

8 月度理事会 (8/18(木) 17:30~20:30 大横保健福祉センター。6 名)

- ① インターネットサーバー管理者：追加選任
- ② さつまいも掘り：10/29(土)雨天時は 11/5(土)
- ③ 会の広報活動：パンフレット・看板・バナー・パネルを刷新する
- ④ 農園：富所農園の獣害と対策の検討、小屋老朽化の対策 他
- ⑤ ブルーベリー収穫体験イベント：4 日間で 68 名参加(内会員外 41 名、子ども 21 名)



農園だより

当法人の活動 3 分野の一つである「農地応援活動」として、遊休農地の市民農園化を地主農家のご協力を得て進めて参りました。

2010 年に加住町に富所農園（面積：1400 m² 区画数：21 区画）を開設して以来、現在市内 3ヶ所に 9 農園を開設・運営し、その総面積は約 9900 m²・総区画数 155 区画と拡大して参りました。

市民農園開設の目的は、

- ① 農地を農地として存続させる
- ② 景観・環境の保全
- ③ 市民に農体験の場を提供
- ④ 農家への新規営農形態の提供
- ⑤ 会の財務的経営体質の強化

皆様には、この目的を共有して頂き、今後の活動にご理解とご協力をお願い致します。

ここ数年の家庭菜園ブームもあり、お陰様で全区画をご利用いただいています。また、ご利用希望の問い合わせも多数あり、野菜作りニーズの高さを実感していますが、当面は 9 農園の管理・運営に注力の考えであります。

富所・新富所農園管理者募集中。管理手当=5000 円/月
詳細は清水迄 (080-3347-6491)

農家さんの紹介

自己紹介と就農までの道のり

堀之内 神田 賢志

幼少期を海外で過ごし、大きな自然に触れる機会が多かった私は、自然や動植物が好きなまま、順調に育ちました。大自然とダイナミックに遊んだ経験が自然をリスペクトする心を育んだものと自覚しています。生物が好きだったことから、東京農業大学へ進学。そこで新たな海の世界と出会い、四六時中潜りながら、自然の大きな循環を知りました。卒業後は農業系出版社の編集者として全国を回り、誇り高い農家の生き様に感化されて就農を決意。農業を始めたらどこにも行けないと思い、オーストラリア、インド、タイ、ネパール、アメリカなど、興味のある国々を1年半かけて放浪しました。帰国後は地元八王子の農家で3年間修行し、2020年に独立。「キテレッツファーム」を立ち上げました。



めざすのは、次世代型有機農業。人が人として地球に生きる限り、自然を破壊し続けるのではないかと。そんな不安に眠れぬ日々を過ごした思春期。農との関わりの中で、これこそが地球とともに生きる道だと、勝手に悟りました。新鮮、安全、美味しいは当たり前。



真に、人と地球にやさしい生き方を模索しています。

農家ではない私が就農するのは、けっして楽ではありませんでした。まず、都道府県ごとに要件があり、それに沿ったプロセスを踏んでいく必要があります。基本は研修と農地探しです。特に東京の場合、借りられる農地を見つけるのが1番のポイントです。幸い私は、母方の祖父が少しの農地を持っており、また研修先からも農地を紹介してもらうことができたため、スムーズに進めることができました。実際に就農するにあたっては、「農地中間管理機構」である「東京都農業会議」の力添えが必要です。就農支援会議という、就農希望者が通る最初の会議があり、それまでに農地の候補地を見つけ、大まかな生産計画を立てる必要があります。会議には東京都農業会議と農業改良普及センター、JA東京中央会の方などが参加され、様々な質問やアドバイスを受けます。それを経て、漸く就農希望地（自治体）の農林課と今後の生産計画や農地の貸借に関する書類などを作成。自治体へ提出し、農業委員会の審議を経て、はれて就農となります。

私が最初に借りた農地は約50アール。目一杯作付けし、売り上げの天井を早く見つけたいと、必死に働きました。その結果、農業だけで生活するには農地が足りないことがわかりました。私の農業のスタイルは有機農業ですが、品質と単価を高めることよりも、有機農産物を普通に手にとってもらえる、そんな世の中をめざしています。そのためには、生産効率を高める必要がありました。地力を失うことなく、品質の高いものを、安定して生産する。その基盤となる農地を拡大することは、急務でした。東京都農業会議へ相談すると、すぐに新たな生産緑地を紹介してもらえました。八王子市尾崎町の、中央道八王子インターチェンジの近くで、60アールほどのまとまった農地です。早速借りて耕し始めました。農地は待っていてもなかなか出てくるものではありません。地元の農家の方に紹介してもらったり、耕作放棄地の持ち主を探したり、普通は地道な仕事です。ここまで私はとんとん拍子、ただ単にラッキーでした。

農地を探して農家になり、野菜の生産から販売まで、ようやく最近仕事がまとまってきました。それもこれも、多方面でいろいろな方にお力添えをいただいたおかげです。農地は現在約120アール。年間40種類ほど、露地野菜をつくっています。圃場では有機JAS認証を取得し、有機農産物として都内や地元のスーパーなどで販売。おかげさまで、なんとか今日も生きております。

野草あれこれ

タカサゴユリ（高砂百合） ユリ科ユリ属

台湾原産、日本全土に分布する球根性多年草。テッポウユリに似るが、違いは、テッポウユリは4～6月に咲き、葉が太く、真っ白なことに対し、タカサゴユリは8～9月に咲き、葉が細く、花卉の裏に紫のスジが入ること。

テッポウユリはユリの中では珍しく雑草化する。小さくて羽のある種子をたくさん作り、種子から1年で花を咲かせる。球根は苦くて食べられない。

